

# 「外国語活動」・「英語」実践報告（武豊地区）

## 1 はじめに

昨年度より、武豊地区3校（衣浦小・富貴小・富貴中）で小中連携による外国語活動の在り方に関する研究を進めてきた。一年目の成果として、小学校では「外国語活動の進め方」を全職員に提案するなど、学級担任の意識改革を求めたことにより、学級担任がT1として外国語活動を構成・展開するようになり始めたことが挙げられる。また、中学校では、小学校外国語活動の内容を知るよい機会となったことが挙げられる。一方課題としては、①中学校入学段階の児童の負担（文字ショック、メモリーショック）を軽減すること、②全職員で外国語活動の研修を行うことが挙げられる。

児童は、ゲーム活動の多い外国語活動の授業を通して、外国語を学ぶことを楽しいと感じている。この意欲を中学校での英語教育につなげるために、小学校でさらに「外国語を学ぶことが楽しい」と感じさせること、中学校では外国語活動での学習形態や内容を取り入れ、小学校で感じた楽しさを持続・発展させることが必要だと考えた。また、知っている英語表現やジェスチャーを使って自分の思いを伝えられる児童を育てたいと考えた。そこで、これらの考えや昨年度の課題を基に、武豊地区として次の4点に取り組むこととした。

- 小学校において、全教員に外国語活動の研修を行うこと。
- 児童に外国語活動を楽しいと感じさせる指導を工夫すること。
- 外国語活動では、教員も児童も英語やジェスチャーを使って積極的にコミュニケーションに取り組むこと。
- 中学校1年生において、フォニックスや外国語活動で行われているゲームを取り入れ、外国語活動で感じた楽しさを持続させながら指導すること。

## 2 各校の取組

### <衣浦小学校>

#### (1) はじめに

武豊地区での方針を受け、本校では、次のように取り組むこととした。

- 学級担任がT1として授業を構成・展開し、児童に外国語活動の楽しさを感じさせる指導を工夫すること（資料1）。
- 自己評価シートを毎時間取り入れ、児童が自分の活動を振り返る場を設けること（資料2）。
- 教員も児童もできるだけ英語やジェスチャーを使って外国語活動に臨むこと（資料3）。

これらの取組を全教員で行っていけるように、校内研修を進めた。まず、外国語活動担当者が授業を公開し、学級担任がT1として授業を進める形をイメージできるようにした（資料4）。また、学年会や職員室で、ゲーム活動やリズムに乗って英語を言うことや、英語表現に慣れさせるための方法を話題にし、紹介しあうことで、各学級担任それぞれが授業改善を進めた。

さらに、今年度から配布された英語ノートを授業に生かすため、英語ノート電子版を用いた研修を行った（資料5）。研修後、英語ノートを使った外国語活動に取り組む担任もあり、研修を生かした

授業改善が進められた。また、夏休みに開催された武豊町外国語活動伝達講習会に全教員が参加し、T1としての外国語活動の進め方やゲームの工夫の仕方などを学び、より研鑽を深めた。そして、学校訪問(10月)において、特設授業として外国語活動を設定した。特設授業では、4月当初からの研修を生かして多くの教員で指導案を検討したり、研究協議会に参加したりし、外国語活動についてさらに研鑽を深めた。

資料 1

英語授業の進め方について

model case	HRT(T1)	ALT(T2)	児童
授業前	黒板に "good""hot""hungry" "great"など "How are you?" に対しての答えを書いておく。		
あいさつ	"Good morning (afternoon) " "How are you?"  "I'm good."	"Good morning (afternoon) " "How are you?"  "I'm good."	目直が日本語で通常授業と同じあいさつ。 児童は立ったまま。 "Good morning (afternoon) " "I'm good. (黒板に書いてある表現) Thank you.And you?"  "Good morning (afternoon) "  "I'm good. (黒板に書いてある表現) Thank you.And you?"
warm up	3 例: 5人 "How are you?" "I'm ~."会話をするように指示。		例: 5人と会話する。
review	8 前時までの復習をする。 例: one-ten Sunday-Saturday "Do you like ~?"	児童と一緒に発音する。	教師の指示に従い発音する。
言語活動	例: 「今日は、〇〇を学習します。ここからは、ペンとパトントを使います！」	本時の学習内容を教える。	

資料 2

Let's speak English!

6年 [ ]

★授業をふりかえって、アンケートに丸をつけよう!

4 よくできた 3 まあまあできた 2 あまりできなかった 1 できなかった

Day	Topic	Big Voice (相手に聞こえる大きさを)	Eye Contact (相手の目を見て会話)	Activeness (原動機を)
5/11	Time (b)	4 (3) 2 1	4 (3) 2 1	4 (3) 2 1
5/12	Cities	4 (3) 2 1	4 (3) 2 1	4 (3) 2 1
5/19	Around the school (a)	4 (3) 2 1	4 (3) 2 1	4 (3) 2 1
6/5	Around the school (b)	4 (3) 2 1	4 (3) 2 1	4 (3) 2 1

感別 (授業をふりかえって、よくできたことや次がんばることを書きましょう)

5月～やっていた英語レッスンを振り返った。がんばった。授業が楽しくて、英語が上手にできるようになった。もう、英語が大好きです。

資料 3

英語授業の進め方について 担当 神谷

取り組むこと

①教師も子どももできるだけ英語(身振り手振りも含む)を使う  
→英語を聞いて相手の思いが伝わる楽しさ、英語を使って自分の思いが伝わることの楽しさを体験させたい。

※1時間の授業をすべて英語で行うのは、教師・児童双方にとって大きな負担となるので、できるだけ英語(身振り手振り)を使うという線をお願いしたいと思います。

※ゲームの説明に関することは、日本語でOKだと思います。ゲームの内容が分からないまま進めると、楽しさを感じられなくなると思うので...

※日本語を使ってよい場面になる時は、「Japanese OK」など宣言するとよいかなと思います。



資料 4 外国語活動担当教師の授業公開



資料 5 教員研修の様子

(2) 授業展開例 (3時間完了, 3/3)

ア 目 標

○進んでゲームに参加させ、誕生日インタビューに取り組みせようとする。

○覚えた表現を使って、自分の誕生日を答えさせたり、相手の誕生日を尋ねさせたりし、コミュニケーションを楽しませる。

イ 学習過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項	
			HRT (T1)	ALT (T2)
ウォームアップ	1 あいさつと復習をする。 (1) 元気よくあいさつをする。 “Good morning.” “How are you?” (2) 5人の人とあいさつをする。 “Good morning.” “How are you?”	3分	○児童とあいさつする。 “Good morning.”  ○教室を回って5人にあいさつをするよう説明する。	○児童とあいさつする。 “Good morning.”  ○教室を回って児童とあいさつをする。
言	2 月表現や誕生日の表現に慣れる。 (1) 本時の学習課題を知る。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">誕生日カレンダーを作ろう。</span> (2) Let's Chant * <sup>1</sup> ・ January ~ December をリズムに合わせて発音する。  (3) Missing Game * <sup>2</sup> をする。 ・ 黒板に貼られた絵カードで、目をつぶっている間に隠された絵カードを当てる。  (4) 誕生日の言い方を復習する。 ・ キーワードゲーム* <sup>3</sup> (序数)  ・ My birthday is ~.を復習する。 ・ When is your birthday?を復習する。	17分	○児童が言いにくそうな月を取り上げる。 ○全員、男子と女子、など形態を変えながら繰り返させる。 ○ゲームに慣れてきたら、隠す枚数を増やして難易度を上げることで意欲を高める。  ○児童が言いにくい表現を取り上げる。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評</span> ゲームに進んで参加しようとしている。(観察)	○児童が言いにくそうな月を発音する。  ○隠れていたカードを発音する。  ○ゲームを通して序数表現を聞かせる。 ○児童が言いにくい表現を発音し、発音指導する。
語	3 インタビューし合い、誕生日カレンダーを作る。 (1) ヒントのジェスチャーを練習する。 (2) 自分や相手の誕生日を答えたり尋ねたりする。 A: Hello. B: Hello. A: When is your birthday? B: Hint. (ジェスチャー) A: August? B: Yes. My birthday is August eighth. A: OK. When is your birthday? B: Hint. (ジェスチャー) A: May? B: No. My birthday is March first.	42分	○前時に考えたヒントを思い出させる。 ○児童を参加させてモデルを示すことにより、理解しやすくさせる。 ○単語やジェスチャーを使って自分の誕生日を伝えるように指示する。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評</span> 多くの児童にインタビューしようとしている。(観察・英語ノート) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評</span> 覚えた表現を使って誕生日を尋ねたり、答えたりできる。(観察)	○HRTや児童と共にモデルを見せる。 ○児童と一緒に誕生日インタビューに参加しながら、つまづいている児童を指導する。
活 動	4 まとめをする。			

まとめ	(1) ふりかえりカードを記入する。 (2) 終わりのあいさつをする。 “Good bye.” “See you.”	45分	○意欲面で自分の活動を振り返らせる。 ○終わりのあいさつをする。	○終わりのあいさつをする。
-----	--	-----	-------------------------------------	---------------

ウ 本時の評価規準

- 大きな声で発音したり，よく聞いたりしてゲームに進んで参加している。(観察)
- より多くの友達と誕生日インタビューをしようとしている。(観察)
- 覚えた表現やジェスチャーを使って誕生日インタビューができる。(観察・英語ノート)

(3) 指導の実際と児童の反応

ア 英語表現に慣れるための工夫 (外国語活動の楽しさを感じさせる指導の工夫)

本単元では，クラスの友達の誕生日カレンダーを作る。そのために，誕生日インタビューをする。誕生日インタビューをするためには，誕生日を聞く表現“When is your birthday?”，誕生日を答える表現“My birthday is ～.”に慣れることが必要である。しかし，ただ構文を繰り返すだけでは，児童の意欲が減退し，効果はあまり得られない。そこで，楽しみながら無理なく英語表現に慣れることができるように工夫して取り組んだ。本単元では，チャンツ<sup>\*1</sup>，キーワードゲーム<sup>\*2</sup>，Missing Game<sup>\*3</sup>を取り入れた。本時を例にすると，まず，チャンツで January ～ December までの表現に慣れさせた。その際，列ごとに順番に発音させたり，男女交互に発音させたりするなど児童が飽きないように工夫した。また，児童が発音しにくそうな月を学級担任が取り上げ，児童に発音を注意して聞かせるようにALTに指示を出した。次に，Missing Game を行い，更に月の英語表現に慣れさせた。フラッシュカードを隠す枚数を増やすことで難易度を上げ，意欲を高めた。次に，序数表現に慣れさせるために，キーワードゲームを行った。誕生日の尋ね方にも慣れさせるため，“When is your birthday?”と始めに言ってからゲームを始めるようにした。これらのゲームに児童は意欲的に参加し，誕生日を尋ねる表現，答える表現を言えるようになった。

本時以外でも，様々なゲームやチャンツを通して表現に慣れさせてきた。児童の感想からは，楽しみながら英語を勉強していた様子が分かる (資料6，7)。

資料 6

資料 7

英語の時間の感想を書きましょう (できるだけ詳しく書いてね)。

↓

授業の最後5分くらゐ、英語のゲーム(ポインティングゲーム)が出来るから楽しかった。  
日本の先生じゃなくて 外国の人だと英語の  
ほっおんがいろいろ分かりやすい。  
リズムにのって英語の勉強する時が  
とても楽しかった。←リズムにのって勉強すると英語が  
おぼえやすい。

8. 英語の時間を「こうしてほしい」と思うことがあったら書きましょう。

またリズムにのって英語の勉強が  
やりたい。

英語の  
きるだけ詳しく書いてね)。

楽しいゲームがたくさんあって楽しかった  
し先生がわかりやすい説明がしゃべり  
かたおしてくれてから少し英語が  
好きになった。

\*1 チャンツ・・・リズムに乗って英語を言うこと。

\*2 キーワードゲーム・・・キーワードが聞こえたら消しゴムを取るゲーム。繰り返し表現に慣れることができる。

\*3 Missing Game・・・児童が目を閉じている間にフラッシュカードを1枚隠し、それを当てるゲーム。

イ Activity 場面でのモデルの工夫

Activity の説明をALTが英語で説明すると児童は内容がよく分からない。そこで、Activity のモデルを児童も参加させて取り組むようにした。本時では、まずALTと学級担任がモデルを見せ、Activity のイメージをもたせた(資料8)。次に、児童と学級担任、児童と児童というような順でモデルを見せた。児童は、活動内容がよく理解できた様子だった。このようなモデルの示し方は、4月から継続して行ってきた。「モデルを見て、Activity の内容がよく分かりましたか」というアンケートでは、よく分かったという回答が多かった。



資料8 モデルを見せる様子

ウ ジェスチャーを使ってのコミュニケーションの工夫  
4月当初に、教員も児童もできるだけ英語やジェスチャーを使って外国語活動に取り組もうという方針を決めた。しかし、児童は英語の語彙が少ないため、難しい活動になっていた。そこで、誕生日インタビューの活動にジェスチャーを使って自分の誕生日を知らせる活動を取り入れることによって、ジェスチャーでも相手に自分の思いが伝えられることを体験する場を設けた(資料9)。また、日付に関しては、相手が日付表現を聞き取れなかった場合は、指で教えてもよいことを伝えた。児童は、ジェスチャーを取り入れた誕生日インタビューを楽しんでいた。さらに、これからもジェスチャーを使って伝えたいという思いをもった児童もいた(資料10, 11)。



資料9 Activityの様子

資料10

Let's speak English!



6年

★授業をふりかえって、アンケートに丸をつけよう!

4 よくできた 3 まあまあできた 2 あまりできなかった 1 できなかった

Day	Topic	Big Voice (相手に聞こえる大きな声)	Eye Contact (相手の目を見て会話)	Activeness (積極的に活動)	英語や身ぶり を上手に伝えようとした
9/18	Review	4・0・2・1	4・0・2・1	4・0・2・1	4・3・0・1
9/19	Review Activities	4・0・2・1	0・3・2・1	4・0・2・1	0・3・2・1
10/9	Months	0・3・2・1	4・0・2・1	4・0・2・1	4・3・0・1
10/13	Months (国語の17)	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1

みんなのやっつけがよかったのしかった。これから英語の授業で英語で話しかけるの。よかった。

資料11

Let's speak English!



6年

★授業をふりかえって、アンケートに丸をつけよう!

4 よくできた 3 まあまあできた 2 あまりできなかった 1 できなかった

Day	Topic	Big Voice (相手に聞こえる大きな声)	Eye Contact (相手の目を見て会話)	Activeness (積極的に活動)	英語や身ぶり を上手に伝えようとした
9/18	Review	4・0・2・1	4・0・2・1	0・3・2・1	4・0・2・1
9/19	Review Activities	4・0・2・1	4・0・2・1	4・0・2・1	4・3・0・1
10/9	Months	4・0・2・1	4・0・2・1	4・0・2・1	4・0・2・1
10/13	Months	4・0・2・1	4・0・2・1	0・3・2・1	0・3・2・1

今日は、英語を身振り手振りで伝えることができた。よかった。これからも、身振り手振りで伝えたい。

エ 自己評価シート

積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の具体的な姿を、①相手に聞こえる大きな声で会話(発音)すること(Big Voice)、②相手の目を見て会話すること(Eye Contact)、③積極的に活動すること(Activeness)の3観点とした。毎回の授業後に3つの視点で振り返り、次時への課題を明確にした。「活動はちゃんとやっているけど、声が出ていないから声を大きくしたい」など、課題をもって外国語活動に参加しようという意欲の高まりが見られた(資料12)。

オ 考察

学級担任に関しては、4月から授業公開などの相互参観を通して、英語の歌を取り入れたり、自分でゲームを考えたりするなど学級担任がそれぞれ工夫して外国語活動に取り組むようになってきた。全教員に対して研修を行ってきたことにより、一定の成果が得られた。

児童に関しては、外国語活動を楽しんでいる姿が見られたり、コミュニケーションへの積極的な態度がうかがわれるようになったりするなどの成果が得られた。

アンケートでは、85%の児童が外国語活動を楽しいと回答した。また、「5年生の時難しくてあまり好きではなかったけど、6年生になってから英語が言えるようになってきて、とても楽しくなった」という感想を書く児童も見られた(資料13)。3観点の自己評価の変容は資料の通りである(資料14~16)。コミュニケーションを積極的に図ろうとするための3観点がよくできるようになった。

資料12

Let's speak English!



★授業をふりかえって、アンケートに丸をつけよう!

4 よくできた 3 まあまあできた 2 あまりできなかった 1 できなかった

Day	Topic	Big Voice (相手に聞こえる大きさ)	Eye Contact (相手の目を見て発話)	Activeness (発音に積極的)
4/17	First Lesson Preview	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
4/26	TV Character	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
5/1	Time (a)	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
5/8	Time (b)	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1

感想(授業をふりかえって、よくできたことや次からがんばることを書きましょう)

私は英語を習っている事をして、学校でやるところは、そうだと  
ところが多くて、(KJF)は、(あま)と書いて、活動がみんなとやると、  
声が出ていから、声を大きくした。  
次から大切だね。

資料13

英語活動をふりかえろう

次の質問に答えましょう。

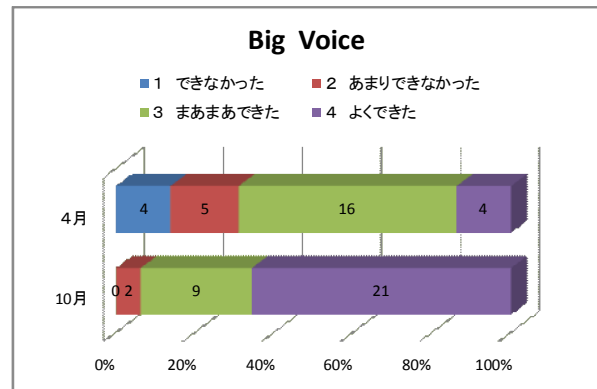
1. 英語の時間は楽しかったですか。

①=楽しかった 2=まあまあ楽しかった 3=あまり楽しなかった 4=楽しなかった

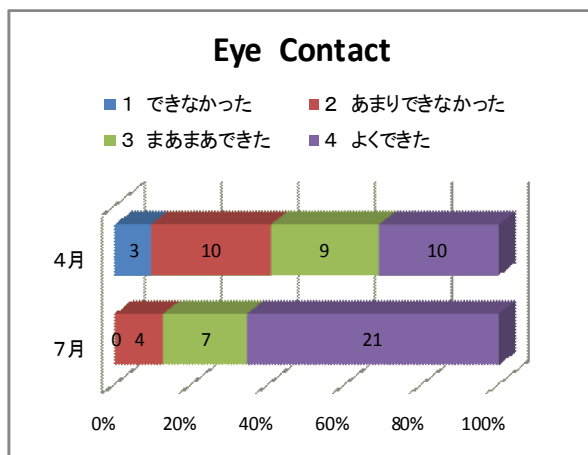
2. 1の質問でそれを選んだ理由を書きましょう。(楽しかったと思った人は楽しかった理由を、楽しなかった人は楽しなかった理由を書きましょう)

自分は五年生の時難しくてあまり好きではなかったけど、六年生になってから、えいごが言えるようになってきてとても楽しくなったからです。

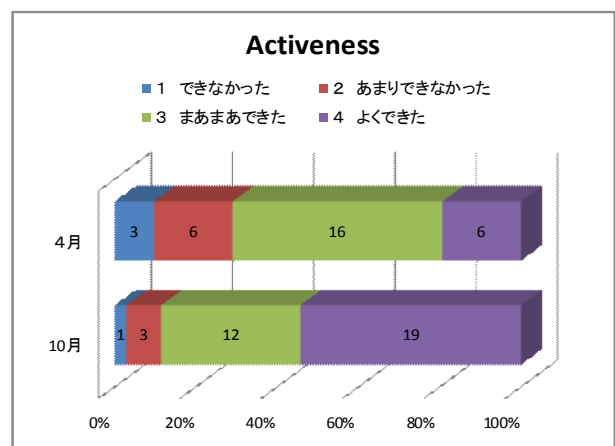
資料14



資料15



資料16



## <富貴小学校>

### (1) はじめに

武豊町での方針を受け、本校では、今年度より外国語活動の時間を「オール・イングリッシュ」で展開している。児童のコミュニケーション能力の素地を育成することを目的としている以上、正しい英語を話すよりことよりも、児童には、「自分の言いたいことを、相手に伝えるためにはどのような方法があるのか」「相手の言っていることを正しく理解しようとしたら、どのように聞けばいいのか」などを、外国語を通して児童たちに体得させることを目指すことが必要である。そこで、学級担任が何とか自分の思いを英語やジェスチャーで表現しようとしたり、相手の英語を理解しようとしたりしている姿が、英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の態度を育てることにつながると考えた。

そこで、本校では、次のように取り組むこととした。

クラスルーム・イングリッシュやALTとの会話を通じ、担任が「英語を前向きに使ってみよう」という姿勢や楽しそうな表情を見せ、「英語を使うことは楽しそうだな」と感じる児童を育てる。

### (2) 授業展開例

#### ア 単元の目標

- 英語で質問したり答えたりすることに興味をもち、英語の表現に親しもうとする。
- 月の言い方を覚え、進んでゲームに参加することができる。

#### イ 学習過程

段階	学 習 活 動	時間	指導上の留意事項	
			T 1 : HRT	T 2 : ALT
あいさつ	1 始めのあいさつをする。 (1) T 1, T 2とあいさつをする。 ・ Good morning. ・ What day is it today? It's Tuesday. ・ How's the weather? It's ~. (2) ABC song を手拍子付きで歌う。	8	○児童とあいさつをする。	○児童とあいさつをする。
			○ ABC song を掲示し、手拍子をするアルファベットを伝え、歌う。	○児童と一緒に歌う。
復習	2 既習の単語を復習する。 ○ 12 か月 ○ 1 ~ 31 日	15	○ T2 の後に続いて、児童と一緒に発音する。	○カードを使って月の名前を復習させる。
課題をつかみ練習する	3 月の言い方を覚え、練習する。 (1) 本時の学習課題を知る。 「あなたの誕生日はいつですか」と尋ねたり、答えたりしよう。  (2) 2つの表現を知る。 “When is your birthday?” “My birthday is ~.” (3) 自分の誕生日をワークシートに記入し、表現を使って練習する。 ○尋ね方や答え方を繰り返し練習する。	25	○児童と一緒に発音する。	○英語で発音の模範を示しながら、表現を繰り返し練習させる。
			○理解するのが難しい児童の側に行き、一緒に発音する。	○ワークシートに自分の誕生日を記入する。
習熟	4 学習した表現を生かして、ゲームをする。		<p>評 “When is your birthday?” “My birthday is ~.” の表現を話そうとすることができる。(観察)</p> <p>○ジェスチャーを交えながらモデルを示し、ゲームの説明の補助をする。</p>	○ジェスチャーを交えながらモデルを示し、ゲームの説明をする。

す る	(1) ゲームの仕方を知る。	工夫3	40	○教室を回って、分からない児童にジェスチャーを交えて支援する。	○教室を回って児童とゲームをする。
	(2) ゲームをする。			評 “When is your birthday?” “My birthday is～.” の表現を使って話しながら、ゲームを楽しむことができる。	(観察・ワークシート)
ま と め る	5 本時の学習を振り返る。	工夫4	45	○児童と一緒に表現を発音する。	○今日の表現を発音させる。
	(1) 「あなたの誕生日はいつですか。」の尋ね方と答え方を言う。 (2) 自己評価カードを記入する。 (3) 終わりのあいさつをする。 ・ Good bye . ・ See you .			○終わりのあいさつを児童と一緒にする。	○終わりのあいさつをする。

### (3) 指導の実際と児童の反応

#### ア 学級担任がT1として行う導入(工夫1)

5年生から始まった外国語活動に意欲的に取り組めるように、普段の様子を分かっている学級担任が授業を構成し、展開することは重要である。毎時間“Six friends communication”やABC songを学級担任が導入部分で主導することにより、リズムが生まれ、児童が雰囲気よく授業に取り組むことができる。

#### イ 発音練習の繰り返し(工夫2)

自信をもって活動できるように、ゲームなどの活動に入る前に、繰り返し発音練習を行った。不安があると、その後のゲームでも口ごもってしまう児童もいる。そのため、①学級担任→全体、②学級担任→児童1人、③個人、④ペア同士、など様々な方法で繰り返し発音練習をさせた。これにより、児童は発音に自信をもち、積極的にゲームに参加することができた。

#### ウ 習熟のためのゲーム(工夫3)

本時は、習熟を図る活動としてビンゴゲームを取り入れた(資料17, 18)。まず、学級担任とALTがモデルを見せることで、言葉だけでは理解が不十分な児童にも理解しやすくした。また、表現の英語をすすんで発音したり、相手の言うことを聞いたりすることで、それらに慣れ親しませることができた。

#### エ 児童の振り返り(工夫4)

授業の最後に、学習の振り返りとして評価カードを取り入れている。“Big Voice” “Eye Contact” “Activeness”の3観点を4段階で評価している。授業ごとに振り返ることができるとともに、「だんだん話せるようになってきた」など自分の成長を感じることもできている。

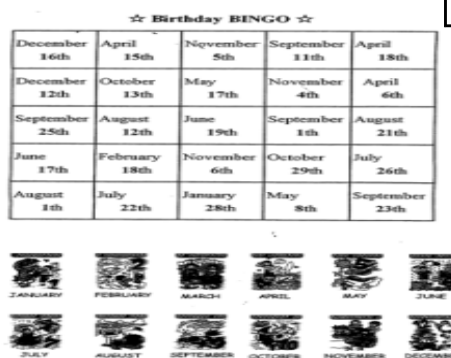
#### オ 自己評価による全体の傾向

評価カードの集計から、4(よくできた)と感じ

資料17

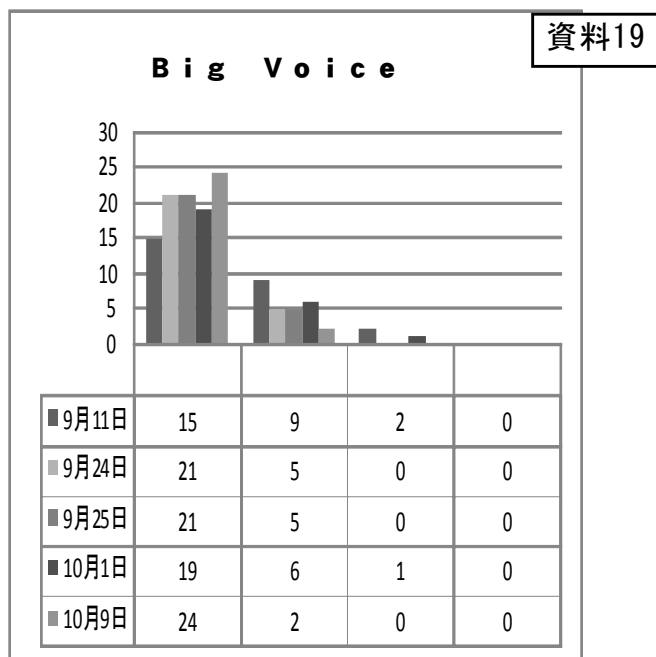
- ①席を移動してペアを見つける。
- ②じゃんけんをして勝った方が“When is your birthday?”と尋ね、負けた方が“My birthday is～.”と答える。役を交代して行う。
- ③ワークシートに相手の誕生日をメモしたら、“Thank you.”と挨拶をして、次の相手を見付け、活動を続ける。

資料18

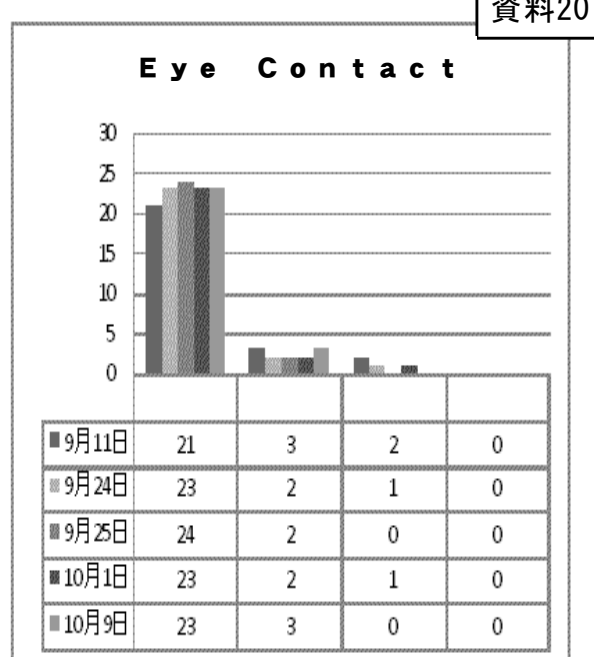




ている児童が非常に多いことが分かった。“Big Voice”の評価（資料19）からは、最初は3（まあまあできた）や2（あまりできなかった）と評価する児童もいたが、4に大きく推移した様子が見られる。また、“Eye Contact”の評価（資料20）からは相手の顔を見て、コミュニケーションを取ろうとしていることが分かる。評価カードから、毎時間担任が児童の様子を把握することもでき、次の授業での机間指導にも有効である。“Activeness”の評価（資料21）からは、全体を通じて、外国語活動に進んで取り組んでいる様子が見られる。



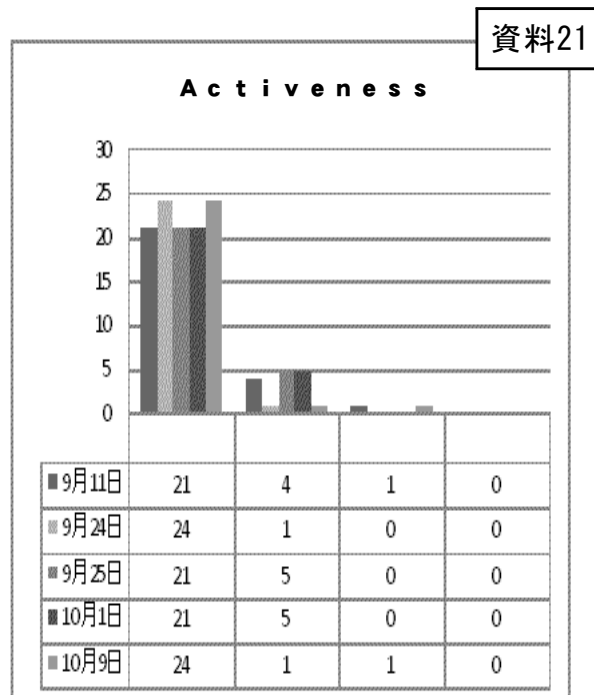
（数字：児童人数）



（数字：児童人数）

#### カ 児童の変容

児童Aは、外国語活動に限らず、消極的な児童である。分からないところがあると、なかなか自分から聞くことができず、自信がないために大きな声で話せないことも多い。評価カード（資料22）を学級担任が確認し、声を掛けてジェスチャーで説明したり、友達とのコミュニケーションを後押ししたりすることで、努力しようとする姿が見られた。繰り返し練習したり、ゲームを通して英語を使ったりすることで、少しずつ自信をもち、前向きに取り組もうとし始めている様子が見られる。



（数字：児童人数）

# Let's speak English!

資料22

授業をふり返って、次のアンケートに○をつけよう。 4 よくできた 3 まあまあできた 2 あまりできなかった 1 できなかった

Day	TOPIC	アンケート項目		
		Big Voice (相手に聞こえる大きな声)	Eye Contact (相手の目を見て会話)	Activeness (活動に積極的)
9/11	Weather (a)	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
9/24	Fruit (1)	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
9/25	Fruit (2)	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
10/1	School Lunch	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
10/9	Vegetables	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1

感想 (わかったことや、できるようになったことを書く)  
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

## キ 考察

児童の様子を見ながら学級担任がジェスチャーを交えて楽しく英語を話したり、様々なゲームを使って表現の習熟を図ったりすることで、児童は安心感をもって活動に取り組むことができた。

評価カードからは、児童の活動の様子を把握することができ、次時の指導に生かすことができた。児童自身も活動を振り返ることができ、「色や動物を英語で言えるようになった」などの成長を自分自身で感じることができるようになった。

しかし、ALTとの打合せの時間の確保が難しく、十分とは言えない。お互いに役割分担をしながら授業を展開できているが、さらに細かい段取りや意志の疎通を図ることで、より充実した活動にしていく必要がある。

## <富貴中学校>

### (1) はじめに

小学校での外国語活動が本格的に始まった。それに伴い、生徒にとって中学校入門期の英語学習が初めて英語に触れる場ではなくなっている。小学校で英語を使ったコミュニケーションを体験し、英語についての何らかの知識・経験を得て中学校での学習を始める生徒に、それを生かし、より効果的に学習を進めていく方法を見いだしていくことが中学校に求められている。

小学校での外国語活動は、知識の習得よりも「コミュニケーション能力の素地を養うこと」を目的としているため、ゲームなどを用いた楽しい雰囲気の中で授業が進められる。しかし、中学校での学習を始めた途端、文法や大量の文字に触れ、英語に対する苦手意識をもってしまう生徒も少なくない。そこで、その対策として次の3つの手だてを取り入れた展開を考えた。

#### ①文字ショックやメモリーショックを軽減させる方策

⇒フォニックス（発音と綴りの関係を表すルールを学ぶ学習法）を使った文字と音声を結び付ける指導

#### ②文法の習得をスムーズに行う方策

⇒中学校での新出表現導入時に、小学校英語活動の既習内容を想起させること

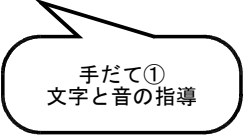
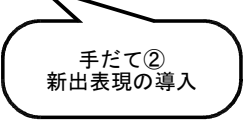
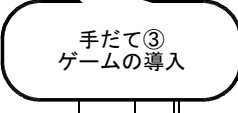
- ・生徒は小学校で英語ノートや電子黒板を使い、多くの表現に慣れ親しんでいる。それは中学校での学習内容と重なっている部分も多く、生徒の理解を助けられるのではないかと考えた。

#### ③文法事項に戸惑い、英語嫌いになってしまう生徒への対策

⇒小学校で行ってきたようなゲームをできるだけ取り入れた楽しい授業

- ・中学校1年生の入門期には小学校でのコミュニケーション重視の楽しい雰囲気を継続させることで、英語への学習意欲をも継続し、さらに高めていきたいと考えた。

(2) 展開例 (単元名 Unit3 グリーン先生の初授業)

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項
ウォームアップ	1 アルファベットの音読みの学習をする。 	10分	○「アブクドウ表」でアルファベットの音読みを確認する。 ○ <b>Phonics Time</b> を開かせ、本時に学習するアルファベットの音読みを再確認する。 ○生徒にも発音させた後、問題に取り組みさせる。 ○前時に学習した一般動詞の疑問文を絵を見せながら口頭で言わせる。 ○何人か指名し、応答文も確認する。
言語材料・題材の導入・理解	3 本時の学習課題を知る。 (1) 小学校の外国語活動を想起し、一般動詞の否定文の言い方を思い出す。  (2) 本時の学習課題を知る。 < don't の使い方 > 一般動詞の否定文の作り方を学習しよう。	30分	○様々な野菜の絵をスクリーンに示し、小学校で学習した英語名を復習する。 ○好きか嫌い英語で尋ねながら、一般動詞の否定文の言い方を思い出させる。 ○小学校英語活動と関連付けて学習させることで、生徒の理解を援助する。 ○スクリーン上で教員の好き嫌いを○×で示し、同時に英作文することで否定文の言い方を思い出させる。 ○肯定文と比較させ、否定文のポイントを考えさせる。 ○一般動詞の否定文では、動詞の前に don't が入ることを確認する。
言語材料の追求	4 基本文の学習をする。 (1) 基本文の構造を確認する。 <b>I <u>don't</u> play soccer.</b> (2) 基本文の表現練習を口頭で行う。 5 本文の学習をする。 6 表現定着のためのゲームを行う。 ○人物当てゲームを行う。 ・ペアになり、配布されたワークシート上の人物を一人選び、○を付ける。 ・じゃんけんをして勝つほうから順に一文ずつ、選んだ人物について一般動詞の否定文を使って口頭で英作文を行う。 ・相手が言った英文を聞き、相手が選んだ人物がだれなのかを予想する。 	45分	○ペアゲームの中で表現練習することにより、生徒一人一人の意欲を引き出し、発話を多くさせる。 評一般動詞の否定文を使い、積極的にゲームに参加することができる。 (観察・自己評価カード)
整理	7 本時のまとめを行う。 (1) ワークシートの英作文に取り組む。 (2) ワークシートの自己評価欄に本時の取組について記入する。 (3) 次時の予告を聞く。	50分	○机間指導をし、ワークシートの問題に取り組むよう指示を出す。 評一般動詞の否定文を使い、簡単な作文ができる。(ワークシート) ○ワークシートに本時を振り返り、評価と感想を記入するように指示する。

(3) 指導の実際と生徒の反応

ア 文字と音の指導 (手だて①)

年度当初から毎時間授業冒頭で10分ずつフォニックスの指導を続けている。まず、「アブクドウ表」(資料23)を使いアルファベットの音読みを練習している。ただ単にリピートさせるだけでは生徒も飽きてしまうと考え、それをABC songにのせて歌って覚えさせた。その次にPhonics Time (資料24)を使い、アルファベッ

a	b	c	d	e	f	g
エア	ブ	ク	ドゥ	エ	フ	グ
h	i	j	k	l	m	n
ハ	イ	ジュ	ク	ル	ム	ン
o	p	q	r	s	t	u
オ	プ	クゥ	ウル	ス	トゥ	ア
v	w	x	y	z	※カタカナ表記と実際の発音は異なります。	
ヴ	ウヲ	クス	イヤ	ズ		

資料23

トを1時間に2つずつピックアップし練習を行った。その成果として、教科書内の新出単語も含め、カタカナ読みではなく、正確な発音を心掛ける生徒が増えていった。









資料24

現在は、次の段階として Phonics Time にある子音の聞き取り・聞き分けを行っている。その際、テキスト通りの単語を発音すると、前後のスペルや絵からアルファベットが予想できてしまう。そこで本当の音に注目させるため、意図的に違う音で読み、それを聞き取らせるように工夫している。(table → dable など)

Phonics Time Step 2  
アルファベットの b と v の聞き分け練習です。  
1. 先生の発音する単語を聞いて、はじめの文字にタッチしなさい。(個人→2人→4人)

b v

2. はじめの音を聞いてその字を書きましよう。

1. ....		2. ....	
3. ....		4. ....	
5. ....		6. ....	
7. ....		8. ....	

Class No. Name

イ 文法事項の導入 (手だて②)

「武豊町の小学校英語活動カリキュラム」では5年生 No.10 ~ 12 でフルーツや野菜の名前を使って一般動詞の疑問文・否定文 “Do you like <vegetables>? — No, I don't. I don't like~.” の活動を行っている。そこで(2)の展開例にあるように、電子黒板を使って野菜の英語名を確認する活動を行った。「小学校の復習をするよ」と言って1つずつ絵を見せただけで、生徒たちは得意気に元気よく野菜名を答えていった。次に疑問文の復習をかねて、“Do you like (vegetables)?” の問いにも元気な答えが返ってきた。そして、電子黒板上に野菜に○×をつけながら教員自身のことについて “I like ~. I don't like~.” と言っていくと、生徒は「えっ、先生嫌いなの？」と言いながら内容を理解している様子であった。その後、否定文を使って話した野菜について、「教員が何を言ったのか」「どんな意味か」を確認していった。そして教員と同じように、自分のことについて言わせてみると、英語を苦手とする生徒も正しく活動ができた。

今後入学してくる生徒は英語ノートも使い、2年間で70時間も様々な英語表現に触れてくる。それらの内容は中学校での学習内容と関連していることも少なくない。小学校段階で呪文のように口にしてきた英文を、英語科の授業を受けて「ああ、これはこういう文だったんだ」という納得とともに、分かる喜びを得て、知識として習得していくことができれば小学校外国語活動を生かしたものになるのではないかと考える。生徒にとって「知っている」「分かる」ということは、学習活動を自信をもって進める大きな要因となる。そのため、小学校英語活動と中学校英語科の関連を見いだし、積極



資料25 電子黒板を使った授業

的にそれを用いていくことが必要である。

#### ウ ゲーム(手だて③)

小学校での楽しい雰囲気継続させるために、ゲームを取り入れると、はじめは「英語が分からない」といっていた英語を苦手とする生徒も、「英語は苦手だけど、英語の授業は好き」と口にするようになり、積極的に授業に参加するようになってきた。

その一方で、新学習指導要領への移行が始まりつつある中学校1年生では、週3時間の中で教科書の内容の上にゲームを取り入れることは、時間のやりくりが難しいのが現状である。4領域の中で最も時間の確保が難しいのが書く練習であり、楽しい雰囲気づくりと確かな英語力の定着の間でジレンマに陥ることもあり、難しさを感じている。

#### エ 考察

依然として、小学校外国語活動を中学校での英語科授業に効果的に取り込んでいく方法は模索中である。その中で問題点も幾つか感じている。小学校では習得を目的としていないために、学習済みと思って授業内で扱おうと、まったく定着していない場合がある。また、武豊町のカリキュラムはあるものの、これまでは本校に入学してくる小学校2校ではそれぞれ別のALTが教えており、小学校によって扱い方が違っていることがあった。今後、生徒が小学校時代に何を学習し、どれほどの知識を得ているのかを把握する小中連携が中学校の英語科授業の前提となってくる。小中連携を図る手だてとして、学校訪問公開授業や学校公開日の担当教員相互参観、さらに町現職教育英語部会での連携強化など、できることから始めている。また、ALTの活用についても、小中連携の一層の促進を目指す体制整備が望まれている。